

平成 28 年 6 月 22 日

北海道農業者サロン
会員各位

北海道農業者サロン
理事長 喜多 俊晴

夏期研修会開催のお知らせ

※注意 日程の変更があります

まず、日程変更のお詫びを申し上げます。

講師各位の都合と小生の不手際により会場や講演者の段取りに少々手間取ってしまい、予定していただいた日程が変更となります。

よろしくご配慮お願い申し上げます。

「小農か大農か」、「TPP は執行されるのか」そんな話をきっかけに、前回は篠原孝氏に農業全般について講演をいただきました。日本の、北海道の、自分達の地域それぞれの、政治と農業について考え、判断する材料を得られたのではないかと思います。政治家といえども、地元の経済的基盤を疎かにしては何も得られないし、何も発信できないことが痛感できました。農業にとっても農村にとってこの先どうあるべきか、永遠に尽きないテーマのひとつです。

夏期研修会テーマ『石灰を学ぶ』

美唄市に工場がある日本理化学工業(株)をご存知の方は多いと思います。

福祉施設としてではなく、民間企業として障害者雇用を率先して進めることで注目を集める道徳的企業です。主たる業務内容はチョークの製造。日本のチョークの品質は世界一。開発された「ダストレスチョーク」の原料にリサイクルした帆立貝殻を使用していることから話は始まりました。

「お前さ、チョークが石灰とホタテでできている、という話で終わっていたら駄目だ。そこからさらに深く考えるのが農業者だろ？」

帆立貝がなぜチョークに使われているのか？使われることで何が違うのか？ホタテにしても炭酸カルシウムにしても同じ「石灰」。帆立貝殻の何がチョークの品質を上げているのか、なぜ柔らかいとか書きやすいといった利用者の声ができるのか、そこには石灰に関わる本質的な問題が潜んでいるのではと田中顧問は暗に示唆します。

さらに調べると、産地、生成過程、生育期間などなど、有機物と同様にたかが石灰にも様々な違いが生まれていることがわかってきます。チョークにおける石灰の問題はチョークにとどまりません、畑にこそ石灰は大量に投入されているのです。

畑にドカドカと投入される「タンカル」。10a あたり何百キロ・何トンと投入されているところもあると聞きますが、本当にそれは有効だと言えますか？本当にそれだけの量が必要だと言えますか？北海道の殆どの農業者が利用するホクレンの土壤分析には、CECの数値も出さないのに肥料設計をするという恐ろしいことが通例となっており、それを信用する農業者が大多数です。PH5でEC2の圃場に、なぜ炭酸カルシウム資材を反当400kg入れなさいという設計なのか、理解に苦しみます。これらが農業関連組織の指導に関わる恐ろしい現実のひとつです。窒素を効かせたい、石灰を効かせたい。どうやって効かせるかについての議論は、20年前から何も進歩していないと田中顧問は言います。

石灰資材は最近、炭酸カルシウムに加えて、貝殻、サンゴ化石・貝化石などの有機資材の利用、また硫酸カルシウムも効果があると報告されています。

硫酸カルシウムは「畑のカルシウム」という全農系の資材もあれば、「ダーウィン」という石膏製造の会社が売り出す資材、リサイクル資材を利用した商品など沢山出ていますが、どこの産地で、どの土に合って、どのタイミングで与えるべきなのか、などなど、明確な利用方法については何が正しい情報かわからない状況です。

福祉とチョークから派生した今回の夏季研修会では、石灰に特化して学びたいと思います。前段として、チョーク製造に関わった工業試験場のセミナー動画を見ます。

その後、土壌・肥料学を研究している帯広畜産大学の谷昌幸教授に土壌でのカルシウムの働き、馬鈴薯を主としたカルシウムの効用事例など、カルシウムを化学的見地から講演いただきます。谷教授とは4年前に土を掘って土壌を理解するイベントに参加した際に出会い、その箇に衣着せぬ物言いと現場を多く回っているが故の自信のある語り口が魅力です。

昨年はうちやま農園の泥炭土壌を掘ってイベントを開催していただき、泥炭土壌の生成過程やフルボ酸という泥炭土壌独特の酸による微量元素への影響、うちやま農園のアスパラの品質への言及などなど大いに語っていただきました。

そして、硫酸カルシウム資材を製造している吉野石膏(株)のセラミック営業部の臼井潤氏より、同社のカルシウム資材の研究成果を講演いただきます。

タイガーボードの製造会社として名高い吉野石膏ですが、そこから端を発した商品開発に当たっては膨大なトライとエラーの検証データが蓄積されていると思います。

それらをサロンのために惜しげなく公開していただきたいと思います。

化学的な話は、文章にできるほど知らない私ですが、「石灰が経営を変える。」そう感じられる研修会にすべく企画しました。

秋には美唄にて日本理化学工業(株)(美唄工場)西川一仁氏の講演、奈良幸則君(江別市)による「能登貝化石を語る」に繋がりたいと考えています。

記

- 日時 平成 28 年 7 月 26 日(火)
13:00 ~ 18:00
(12:00~ 受付開始)
- 場所 「札幌サンプラザ」
札幌市北区北 24 条西 5 丁目
TEL.011-758-3111
<http://www.s-sunplaza.or.jp/>
- 講演 テーマ「石灰を学ぶ」

「土壌と石灰を語る」
帯広畜産大学 谷 昌幸 教授

「硫酸カルシウムの利用を考える」
吉野石膏株式会社
セラミック営業部 臼井 潤 氏
- 食事会 講演会終了後～1 時間程度
1F レストラン フリースペース
- 会費 2,000 円
- 備考 終了後は 1F レストランフリースペースにて
夕食・名刺交換などどうかと考えています。
食事会の費用は実費負担となります。
(2,000 円程度ご用意ください。)
なお、宿泊については各自ご用意ください。

以上

夏期研修会参加申込書
(該当する□へ✓をお願いします。)

■参加する

研修会（講演会）のみ参加する

研修会・食事会に参加する

参加会員名：

同行参加者名：

連絡先：

参加しない

会員名：

【7月4日（月）までに参加の有無を必ずご連絡ください。】

【お問合せ先】

北海道農業者サロン事務局／(株)イーストウエスト東京事務所

〒102-0075 東京都千代田区三番町 7-5-105

Tel:03-3288-1888 Fax: 03-3288-2555

e-mail: salon@eastwest-tokyo.co.jp

FAX送信先：03-3288-2555

事務局 坂井あて